

トビウオ通信 (R8 第 9 号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和 8 年マアジ新規加入量調査結果》

マアジ 0 歳魚（令和 8 年生まれ）の新規加入量調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は、その年に生まれたマアジの加入状況を早期に把握するために、平成 15 年以降実施しています。

参画機関は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所（以下、水産資源研究所）、鳥取県水産試験場、山口県水産研究センター及び島根県水産技術センターです。

※当調査は、水産資源調査・評価推進事業によって実施しています。

結果の概要

- 本調査におけるマアジ 0 歳魚の採集尾数は、前年（令和 7 年）を下回りました。
- 調査結果を基に計算した令和 8 年のマアジ 0 歳魚の加入量指標値（来遊量の多さ）は、0.43 となり、前年（令和 7 年）の 1.63 を下回りました。
- 令和 8 年のマアジ 0 歳魚の来遊量は、「前年を下回る」と推測されます。

マアジ 0 歳魚の採集結果と分布状況

令和 8 年 5 月 11 日から 6 月 12 日にかけて、長崎県五島列島沖から島根県大社沖の海域における 81 地点※でマアジ 0 歳魚を対象とした中層トロール網を用いた調査を実施しました。その結果、尾叉長 2cm～4cm サイズを主体に合計 3,982 尾が採集されました。1 曳網あたりの平均採集尾数（以下、CPUE）は 49 尾であり、前年（令和 7 年）の 161 尾を下回りました。

※鳥取海域及び隠岐海域は欠測

また、令和 8 年の調査におけるマアジ 0 歳魚は主に 16～18℃（水深 50m 水温）
の水温帯に分布していました（図 1）。

北緯

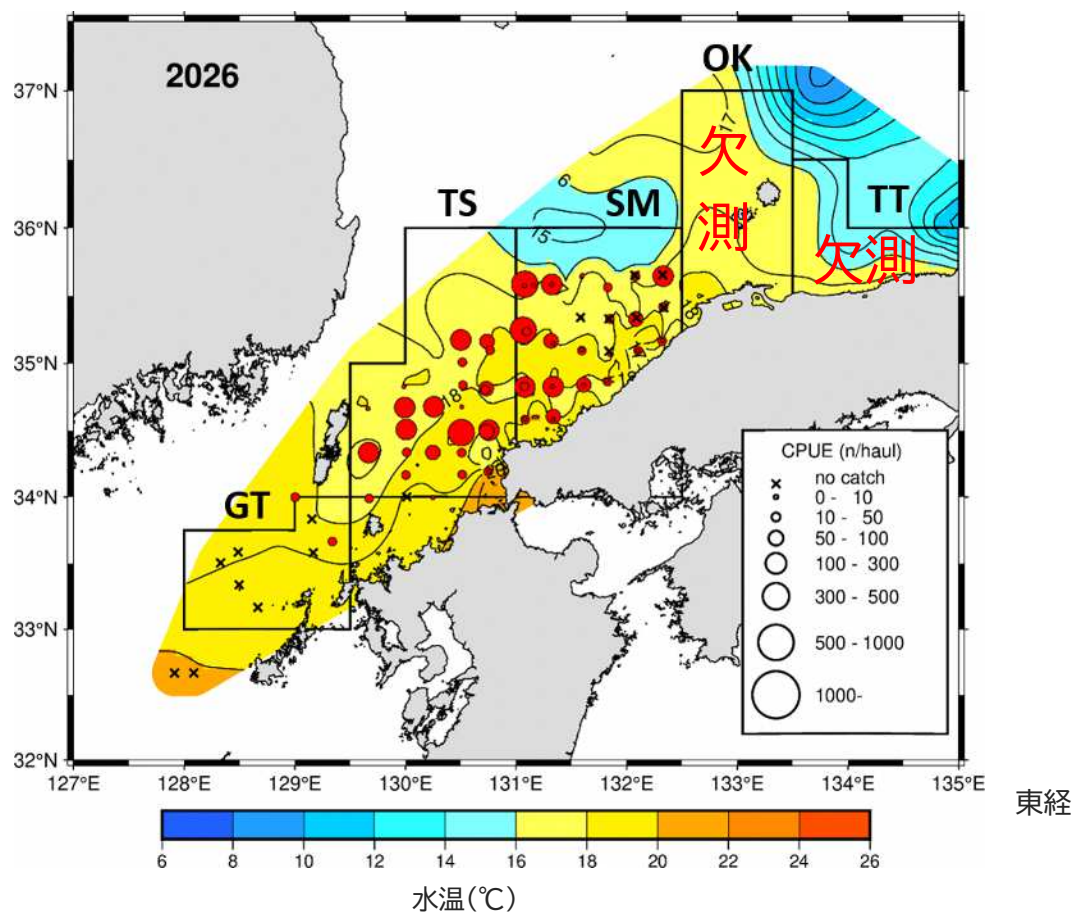


図 1 マアジ新規加入量調査における令和 8 年のマアジ 0 歳魚の採集結果
調査範囲：五島列島海域（GT）、対馬海域（TS）、島根海域（SM）、隠岐
海域（OK）、鳥取海域（TT）
○の大きさはマアジの CPUE の多さ、×は採集されなかった調査点。
なお、SM 海域における一部定点は 1 定点につき 2 回調査を実施したため、
○又は×を重複して表示。

（資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成）

マアジ 0 歳魚の加入量指標値と来遊量

令和 8 年の調査を基に算定したマアジ 0 歳魚の加入量指標値は、平成 15 年を 1 とした場合、令和 8 年は 0.43 となり、前年(令和 7 年)の 1.63 を下回りました(図 2)。

このことから、令和 8 年のマアジ 0 歳魚の来遊量は、「前年を下回る」と推察されます。

ただし、隠岐海域および鳥取海域は欠測であったため、令和 8 年の加入量指標値は参考値として扱う必要があります。

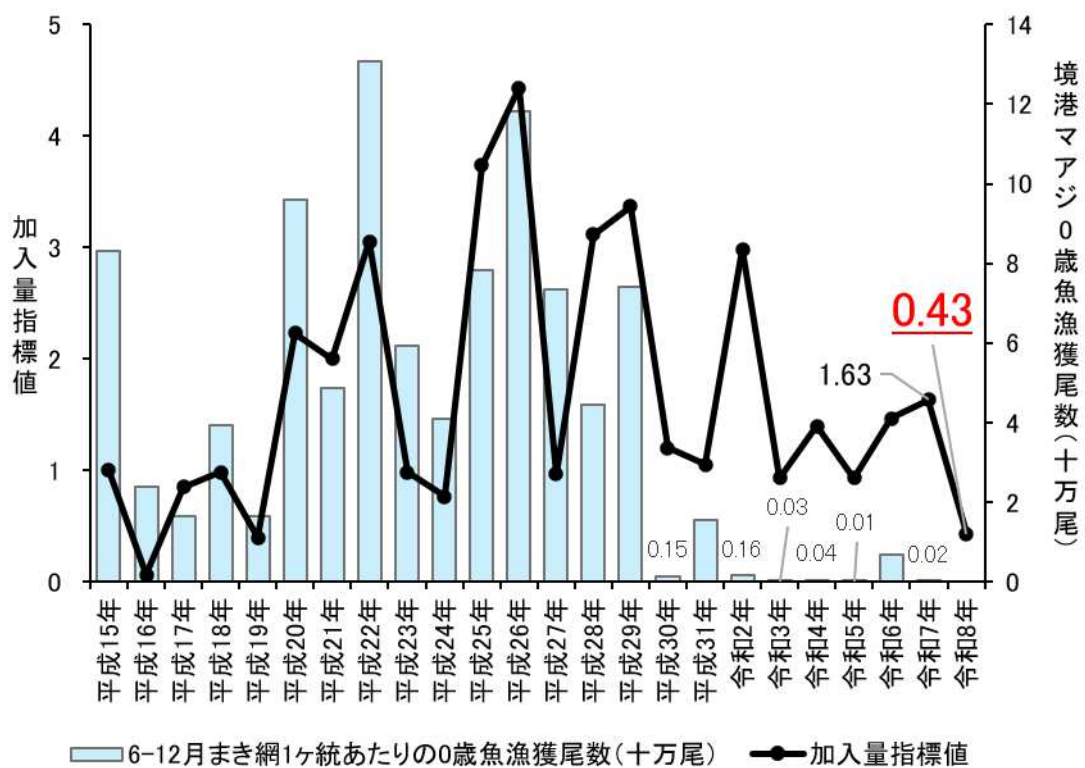


図 2 マアジ 0 歳魚の加入量指標値の動向

(国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所が算出した数値より作成)

※平成 30 年～令和 7 年の境港における 0 歳魚の漁獲尾数は微小のため、グラフ上で判別しにくい場合は数値を表示。また、令和 8 年の漁獲尾数は集計前のため未掲載。

マアジ資源の現況と資源の利用方法について

図 2 より、近年の加入量は低い水準で推移していると考えられます。また、当県のマアジ漁獲量と密接に関係しているマアジ対馬暖流系群の資源量も平成 28 年以降、緩やかな減少傾向にあります（図 3）。

このような状況の中、0 歳魚の漁獲量が増加した場合、翌年以降の親魚量が減少し、その結果、十分な産卵量が確保できず、加入量の減少を通じて資源に大きく影響を及ぼすおそれと考えられます。

漁業現場において、0 歳魚の混獲を完全に避けることは難しいと思われませんが、資源の持続的な利用と漁業経営の安定化を図るためには、令和 8 年のように加入量が少ない年は、漁業者による休漁日の設定や小型魚の漁獲量制限等の自主的な資源管理の取り組みに加え、0 歳魚の漁獲を可能な限り獲り控え、親魚に成長してから漁獲することが重要です。

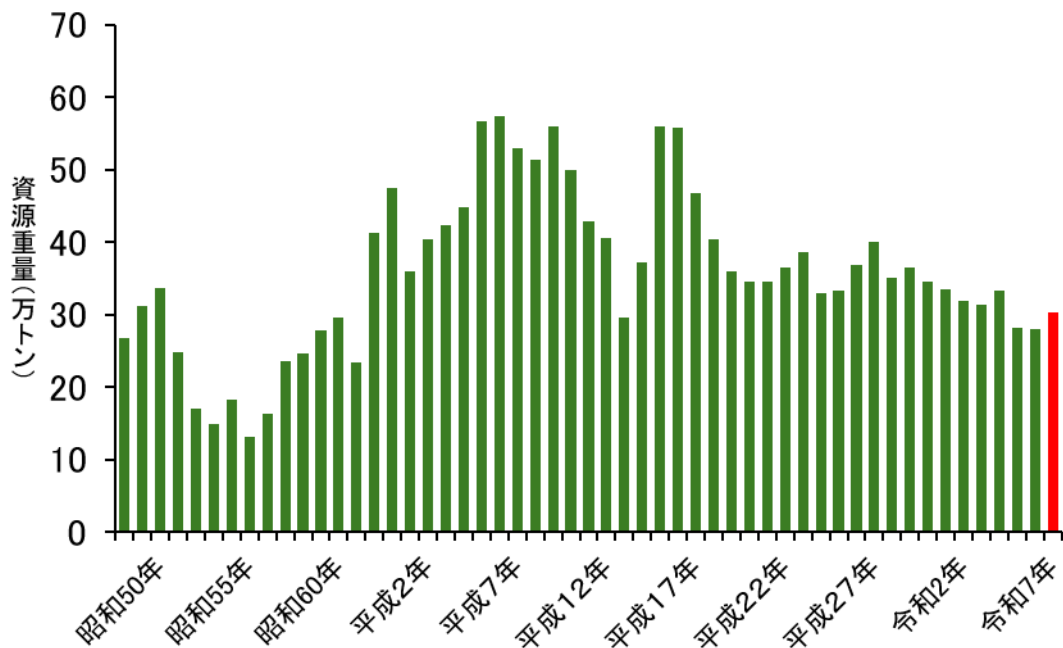


図 3 マアジ対馬暖流系群における資源重量（昭和 48 年～令和 7 年）
令和 8 年度マアジ対馬暖流系群資源評価票から作成